



【前回までのストーリー】

時は 2042 年、理夢華 22 歳であった。

理夢華は AI 搭載型ドローンに戦国の軍師の認知能力をラーニングさせるため、AI が弾き出したレーティングを基に選出しようとしていた。

戦術レベルは上杉謙信が最高レーティングであるが、戦略レーティングは天下統一を意識するため織田信長以降に高くなり、羽柴秀吉で最高レーティングとなる。そして AI は鎖国を後の歴史からみるとマイナスと判断し、徳川家康のレーティングは下げている。

その羽柴秀吉の軍師・黒田官兵衛が高レーティングの軍師であることが選出された。そして、更に黒田官兵衛よりも上のレーティングの軍師がいると言う答えを AI は出すのであった。

奈美

「で、黒田官兵衛より高いレーティングの軍師って誰なの？」

理夢華

「それが竹中半兵衛よ」

奈美

「あ、この人も官兵衛と同じ秀吉の軍師だったわね。秀吉の懐刀と言われていて、官兵衛と合わせて両兵衛とも言われてて」

理夢華

「よく知ってるわね、さすが奈美、教師目指しているだけあるわ」

奈美

「・・・で、竹中半兵衛はなぜ黒田官兵衛よりもレーティングが高いの？」

「確か、半兵衛は早く亡くなっているし、黒田官兵衛よりも活躍は地味な印象よ」

理夢華

「これは黒田官兵衛が高いレーティングを叩き出しているために、相対的に竹中半兵衛も高くなるって仕組みなの」

奈美

「なるほど、“両兵衛”と並び称されている時点でレーティング的にはほぼ同じと見ていいのね」

理夢華

「そうなの」

「そして、黒田官兵衛の認知の歪みを竹中半兵衛が指摘していることから、AI は竹中半兵衛の方が認知バイアスが少ない、という答えを導き出し、竹中半兵衛のレーティングを軍師の中で最高得点としているの」

黒田官兵衛が羽柴秀吉から知行の加増を約束されており、その手紙を残していた。しかし、それを「貴殿のためにならない」と言って半兵衛は破り捨ててしまった。ここに官兵衛が秀吉に警戒される要素が既にあり、この点を AI は官兵衛にマイナスポイントをつけ、逆に半兵衛にプラスポイントをつけたのである。半兵衛には、官兵衛の一部の将来が既に見えていたのかもしれない。



その他にも、半兵衛は長篠の合戦時に、戦術レーティングの高い武田家の陽動を見抜いているから、そこもポイントが高い。また、斎藤家時代、織田信長の攻撃を退けたことや、主君を戒めるために少数で城を占領したり、三木城の兵糧攻めなど、これらもレーティングを高くする要因となっている。

奈美

「へえー、竹中半兵衛も凄すぎるわ」

理夢華

「若い頃、官兵衛は荒木村重の説得で失敗しているけど、そこには少し自分の才能に奢りがあったのかもね。そして、秀吉に野心を感じさせてしまったこと。AIは、黒田官兵衛のそうした大胆なところは男性ホルモン・テストステロン値が高いからだと思っているわ」

奈美

「社会的に成功している人に多いホルモンね。積極性は出るけど、その抑え役が必要かもね。そっか、それが竹中半兵衛だったってことね」

理夢華

「そうね、晩年の黒田官兵衛は凄かったけど、若い頃はやや前が出るのが強すぎたのかも。それに比べて竹中半兵衛は、マイナスされるところがないの。そこが、レーティングが高い理由よ」

奈美

「プラスが多いよりも、マイナスが少ない、勝つよりも負けないことなのね」

理夢華

「けど、多分、二人は知者同士で通じ合うところはあったと思うわ。このドローンのAIに複数のデータをラーニングさせる場合、お互いの相性は大事よ」

理夢華はこれに加えて、更に「勇敢さ」「直感」のパラメータを入れることを考えている。「勇敢さ」は大脳辺縁系の情動、「直感」は大脳基底核や脳幹の反射的な働きである。この竹中半兵衛・黒田官兵衛の大脳新皮質的な働きに、もう少し野性味を加え、バランスをとるのである。そして、勇敢度と直感度のレーティングが高く、両兵衛と相性のよい武將を二人挙げた。

理夢華

「立花宗茂と島津義弘よ」

どちらも言わずと知れた猛将・勇将であり名将である。この二人は因縁がある。立花宗茂からすると、島津義弘は宗茂の父・高橋紹運の命を奪った敵であった。しかし、宗茂は義弘を許したという美談がある。そして、宗茂はその後、官兵衛の軍門に降っていることから、宗茂と官兵衛の二人の相性はよいとAIは判断している。そうすると、自動的に黒田官兵衛と島津義弘の相性もよいと判断されるのである。また、この両兵衛には、こうした宗茂や義弘のような、利害では動かない、実直な武將と相性がよいと出ているのである。

奈美

「これで役者は揃ったってわけね。けど、どうやってこの人たちのデータをラーニングしていくの？」

理夢華



「まず、この人たちの業績や書き残したものをデータ化してラーニングするの」

奈美

「なるほどね」

理夢華

「それと DNA の情報よ」

奈美

「え、そんなのわかるの？」

理夢華

「遺骨や遺髪、血判状の血判などからわかるの」

「火葬した場合はわからなくなってしまうんだけど、最近の技術は、それを復元する技術もできてね」※3

奈美

「すごいよねえ」

理夢華

「そして、そのデータは国が保存してて、日本人で特定のライセンスを有していれば、調べることが可能なの」

「私は、父の会社のライセンスを使って使用してるのよ」

奈美

「へえー、そんなのあるのね」

こうして竹中半兵衛・黒田官兵衛・立花宗茂・島津義弘のデータを、ドローンが搭載している AI にラーニングさせた。

理夢華

「やっと終わったわ。ここから仮想空間を使って、このドローンの仮想アバターで飛行させ、様々なことを学習させていくの。そして、この四人の武将データを統合したり、相性の悪い部分や不必要なところは削ったりする作業をするのよ」

奈美

「そうなのね。ところで、このコには名前は何につけないの？」

理夢華

「あー、考えてなかったわ」

奈美

「ドローンで冒険するから、ヒーローズジャーニー的な名前がいいわね」

理夢華

「じゃ、“テセウス”ね」

奈美

「ギリシャ神話に出てくる英雄ね。確かに、彼も船に乗って旅するし、イメージとしてはぴったりね」

理夢華

「でしょ！」

「そして、ここから数日間は、仮想空間でのシミュレーションよ。その後で、AI 搭載ステルスドローン・テセウスの冒険のはじまりよ！」

奈美

「わお、楽しみね！」



【解説】

※火葬した場合は DNA 鑑定不可能である